

2011/2012 平成23年度



第1次支援では、運動不足解消や創作活動奨励の一助として、被災地の幼稚園や学校、避難所等にスポーツ教材と画材の支援を行った。また第2次支援では「子どもの学び支援ポータルサイト」の情報をもとに東松島市の小学校4校に19種のスポーツ教材を支援した

迅速かつ実効性の高い対応を指針に、YMFSのネットワークを活かした復興支援活動を展開。

3月11日に発生した東日本大震災では、多くの尊い人命が失われるとともに国民生活にも未曾有の被害をもたらした。一方、震災発生後には多くのボランティアが被災地に駆けつけて支援の輪を広げるなど、復興・復興の過程を通じて助け合いの精神や社会の絆の大切さがあらためて浮き彫りになった。そうした中で、スポーツ界もさまざまななかたちで復興に向けた活動を展開し、多くの人々を勇気づけた。

当財団ではこの年、平成19年度より毎年実施している「スポーツ教材の提供」を中止し、被災地域で起きている子どもたちの運動不足解消や、創作活動奨励の一助として、幼稚園、学校、避難所等にスポーツ教材(サッカーボール700個、ドッジボール700個、長縄500本)と、画材(クレヨン12,000セット、スケッチブック12,000冊)の支援を行った。この第1次被災地支援の実施に当たっては、マルマン(株)とルフラン&ブルジョワ社の協力をいただいた。また、東松島市教育委員会を通じて、大曲小学校など市内の4校にフットサルゴールや跳び箱、逆上がり補助板、デジタル握力計など計19種のスポーツ教材を支援する第2次支援を行った。これらの支援品や支援先については、文部科学省が運営する「子どもの学び支援ポータルサイト」の情報をもとにした。

一方、津波によりホームマリーナを失うなど甚大な被害を受けたセーリングクラブや高校ヨット部に対しては、練習機会や競技会参加機会の提供支援を行った。当財団が運営するジュニアヨットスクール葉山が浜名湖で開いた夏合宿に、いわきジュニアヨットクラブ(福島)から2名の小学生セーラーを招いたほか、第20回セーリング・チャレンジカップIN浜名湖では、被災地からの参加者に輸送費の補助や参加費免除の措置を設け、県立いわき海星高校(福島)など被災3県から合わせて9選手が参加した。なお、これらの支援については平成24年度も継続した。

50年ぶりにスポーツ振興法が改正され、スポーツ基本法の制定・施行や、その総合的かつ計画的推進のためにスポーツ基本計画が策定されるなど、スポーツを通じた幸福で豊かな社会づくりに向けた基盤整備が進められた。FIFA女子ワールドカップ2011ではなでしこジャパンが優勝を飾り、震災で消沈する日本に一筋の光を差した。こうした中、当財団は設立から5年の節目を迎え、「事業のさらなる質向上」と「新たな価値づくり」を基調とする中期事業方針を策定した。

スポーツチャレンジ助成事業

平成22年度成果報告会の代替として東京、静岡、大阪で計5回のエリア別報告会を行い、ラフティングの世界大会で優勝したTHE RIVER FACEが審査委員特別賞を、また研究チャレンジの三浦哲都氏が特別チャレンジ賞を受賞した。7～11月に計7回実施した中間報告会では、「震災時にスポーツは何かができるのか?」をテーマにスポーツ討論会を開き、活発な意見交換を行った。



■平成23年度(第5期生)助成概要

	申請数	採択件数	助成金額
体験助成	48件	14件	1,180万円
研究助成	90件	14件	1,210万円
奨学生	19件	4件	480万円(1年分)
計	157件	32件	2,870万円

スポーツ振興支援事業

■ジュニアヨットスクール葉山

レーシングクラスのスクール生(高校3年生)が日本ユース代表に選出され、イギリスで開かれたユース世界選手権に出場。また、ベシッククラスのスクール生(小学4年生)がタイのセーリング合宿に参加するなど国際交流が進んだ。自然・水辺体験活動も2年目を迎え、この年も伊豆大島外洋帆船訓練をはじめとして、カヌーやラフティング、川でのトレッキングなど、さまざまな体験活動を実施した。



■セーリング・チャレンジカップIN浜名湖
第20回大会の節目であり、震災の影響で2年ぶりの開催となった同大会には、全国26クラブから88選手が参加。輸送費の補助や参加費免除の措置を設けた被災3県からは9選手が参加した。

■スポーツ教材の提供

平成23年度の「スポーツ教材の提供」を中止して、子どもたちの運動不足などの課題が浮上した被災地への支援を行った。

■全国児童 水辺の風景画コンテスト

水辺体験活動を促進するため、テーマを「水辺で発見・体験したことや学んだこと」「水辺の仕事や乗り物」「水辺で見た景色」「水辺に棲む生き物」の4部門に変更して実施。全国から合計6,472点の作品が寄せられた。幼児からの応募に増加傾向が見られたことから、幼稚園や保育園で水辺の体験行事などが積極的に行われていることがうかがえた。



スポーツ文化・啓発事業

■第4回ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞



[功労賞] 岸本 健氏

スポーツ写真家の草分けとして、スポーツ報道の機会拡大に貢献



[功労賞] 水谷 章人氏

独創的な表現でスポーツの魅力を伝え、スポーツ写真家の育成・環境整備にも尽力